科目ナンバリング	G-LAS14 80001 LJ50						
授業科目名 <英訳>	生命科学キャリアパス Career Paths in Life Sciences			担当者所属 職名・氏名	生命科学研究科 教授　　片山　高嶺		
群	大学院横断教育科目群	分野(分類)	キャリア形成系		使用言語	日本語	
旧群		単位数	1単位	時間数	15時間	授業形態	講義（対面授業科目）
開講年度・開講期	2025・ 前期集中	曜時限	集中 6/25,7/2,7/9,7/16の4日間　各3・４限	配当学年	大学院生	対象学生	理系向

（生命科学研究科の学生は，全学共通科目として履修登録できません。所属部局で履修登録してください。）

[授業の概要・目的]

生命科学領域の博士の進路は、アカデミックな研究者、バイオ関連企業における高度実務者、知財専門家、起業家、官公庁の行政専門家など多様である。本講義では、各分野で活躍する講師が提供する生命科学のキャリアに関する話題をもとに、生命科学分野の博士学位取得後のキャリア選択肢を広げ、社会で活躍する博士のイメージを具体化する。博士学位取得後の能動的なキャリアパス設計能力を身に付ける。

[到達目標]

受講学生は講義中での議論を通じて、科学（医学・生命科学・農学等）を学んだ博士が活躍する各キャリアを深耕し、必要なスキル・要件を理解できるようになる。社会のなかの科学の位置づけを理解し、自身の研究や習得した能力を有効に活用するキャリア設計ができるようになる。

[授業計画と内容]

６月２５日
担当講師：仙石慎太郎（東京工業大学・教授）
「博士号を取る時に考えること、取った後できること」
PhD (Philosophiae Doctor, Doctor of Philosophy)とは元来、特定の分野における専門性ではなく、学術研究に従事する者の資質の証です。すなわち、与えられた研究課題の着実な遂行だけでなく、研究課題を構想する能力、学術的で質の高い「問い」（リサーチ・クエスチョン）を設定する能力、分析的アプローチをもとに「問い」に答える能力、その為に必要なプロジェクトマネジメント能力やコミュニケーション能力、更にこれらの能力を最大限に発揮するためのリーダーシップ・フォロワーシップが含まれます。そして、これらの資質は他の分野のプロフェッショナルにも共通であることから、キャリア機会は研究職に限らず、多様な広がりをもっています。本講義では、PhD/博士の歴史を振り返りつつ、上述のスキル・リーダーシップ要素について解説したうえで、博士課程におけるキャリア形成と展望への意味合いを議論します。

７月２日
担当講師：山崎智弘（大阪大学大学院生命機能研究科・講師）
「博士号取得の魅力と価値」
　本学の生命科学研究科にて博士号を取得し、その後、米国留学、２つの国内の大学での教員に従事してきました。このキャリアの中での出来事やその時に考えていたことなどについてお話しします。特に、博士号を取って研究をしていてよかったと思うことについて触れたいと思います。加えて、博士課程から続けているRNA研究の面白さについてもお伝えできればと思っています。こうした話を通じて博士号取得の魅力や価値について考える機会にできればと思います。

７月９日
担当講師：石原　沙耶花（森永乳業株式会社基礎研究所・副主任研究員）
「研究キャリアの選択肢」

生命科学キャリアパス(2)へ続く↓↓↓

生命科学キャリアパス(2)

大学院卒業後、アカデミックポストに就き、論文博士として博士号を取得しました。大学では約10年間、免疫分野の研究を行い、2022年より民間企業の研究職に就きました。これまでどのような経緯で研究という職、そして現在の研究分野に携わることになったのか、また、大学と企業の両方での研究経験をもとに感じたこと（大学での研究活動を通じて得られる能力が社会においてどのように活用されるか、大学と企業での研究に対する考え方や取り組み方の違いなど）について、これまで行ってきた研究とともにご紹介させていただきたいと思います。

７月１６日
担当講師：鈴木道生（東京大学大学院農学生命科学研究科・教授）
「研究好きなら博士課程へ。博士は引く手あまたになる」
研究が好きで博士課程への進学を検討しているなら、絶対に進学し博士を取得した方が良いと簡単に言えるような時代になって欲しいと思っている。簡単ではない理由は、20年以上前にあったポスドク１万人計画による弊害や高学歴難民などのワードにより、博士取得に対するネガティブな感情が今だに尾を引いているのかもしれない。私自身は博士取得後、ポスドク、海外留学、任期付きポストなどを渡り歩き、今もアカデミック分野で研究を続けているが、その中で大きな時代の流れを実感している。この10～20年で日本や世界の情勢は大きく異なってきており、今後は産官学のみならず、至る所で博士を持つ人材は引く手あまたになると言っても過言ではない。研究が好きな学生さんが将来に研究分野で活躍できる様々なチャンスや選択肢が広がっているので、その一端を私自身の研究と共に紹介する。

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

出席および講義中の議論への参加、またレポート提出で評価を行う。原則として、全講義への参加とレポート提出を必須とする。体調不良や学会参加等でやむを得ず欠席する場合は事前に連絡すること。事前に連絡なき場合は欠席扱いとする。

[教科書]

使用しない
講師によっては講義資料を配布予定。

[参考書等]

（参考書）
三浦有紀子、仙石慎太郎 『博士号を取るときに考えること　取った後できること』（羊土社）
ISBN:978-4-7581-2003-6

[授業外学修（予習・復習）等]

各講師の授業計画を熟読し、議論に備えること。

[その他（オフィスアワー等）]

様々なキャリアを有する方々の生の声を聞くことができる良い機会ですので、博士課程進学を考えている修士課程学生の履修も歓迎します。
コーディネーター（片山）の連絡先は、katayama.takane.6s@kyoto-u.ac.jpです。レポート提出はPandAにて行ってください。

[主要授業科目（学部・学科名）]

生命科学キャリアパス(3)へ続く↓↓↓

生命科学キャリアパス(3)